



2023年9月1日

(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

〒891-0113

鹿児島市東谷山 2-33-13

TEL・099-268-2084

FAX・099-284-5738

E-Mail : taniyama-cc@lagoonne.jp URL: <https://catholic-tc.jp>

発行人：盛 克志神父 編集委員：上原敏子、上釜照美、徳永珠美

「恵老の祝福」

カトリック谷山教会 主任司祭 ライモンド 盛 克志

日本の社会では9月には敬老の日がやってきますが、高齢になることは神さまの恵みであることから、「恵老」と表現してみました。

聖書の中に「白髪は輝く冠」(箴言16章31節)という言葉がありますが、長寿は神の栄光を表す冠、神の祝福の現れです。

もちろん、老いることには、身体の衰えなどつらい面もあると思います。しかし、年を重ねることは、知恵ある人として尊敬されてきました。

高齢になって初めて分かることや悟ることがあると思います。長寿になって悟る真理は何でしょうか。それは、私たちの「いのち」は神さまによって生かされているということだと思います。自分の力によって生きているのではなく、神さまによって生かされている「いのち」を生きているという真理です。

イザヤ書 46 章 4 節にはこう書いてあります。「わたしはあなたたちの老いる日まで 白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す」と。私達を創造された神さまは、私達を最後まで担っていくと約束されています。なんと幸いなことでしょう。

旧約聖書のヨブ記に登場してくるヨブは、全財産と子ども達すべてを失った時、神に向かってこう叫びました。

「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」(ヨブ記 1 章 21 節)

聖書が教えて下さっている真理は、「主は与え、主は奪う」ということ、それは、私達は神さまによって生かされているということです。

今日まで生きてこられたのも神さまのお守りと導きがあったからです。神さまによって生かされてきました。そう思うと何と有難いことと神への感謝に溢れてきます。神さまに生かされてきたという発見は感謝に変わってきます。

ですから、私達の生き方は、自分の力で頑張るというより、すべてを神さまに委ねて生きる生き方となっていきます。

これからも、体は衰えてきても、魂は神さまから離れないで、信仰から離れずに生きる姿を、教会の次の世代の後輩たちに見せてください。それが、神さまから高齢の皆さんに託された大切な使命だと思います。





教皇「十字架を見つめ、証しする」

「わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えていきます [...] 神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです」(1 コリント 1,23-24)。

聖パウロはこする一方で、彼の知恵には「つの」「愚かなものであることを隠すは死の道具ではそこからやっ



のように宣言は十字架が人まずかせるもの」(同 1,23) さない。十字架あるが、いのちて来る。十字架

は誰も見たくないものにも関わらず、それはわたしたちに神の愛の素晴らしさを啓示するものである、と教皇は述べた。まさにイエスがつけられた十字架の下にいて、十字架上で死んだイエスを見た福音記者ヨハネは、その出来事を伝えながら「それを目撃した者が証している」(ヨハネ 19,35)と記した。教皇は、聖ヨハネのように、十字架を「見つめ」「証しする」ことの大切さを示された。

十字架を「見つめること」。では、聖ヨハネは十字架の下で何を見つめたのか？世の目には十字架は「敗北」であるが、聖ヨハネは十字架の中に神の御業を見つめ、十字架上のキリストに神の栄光を認めた。彼は、人間のためにすすんで自らを与えられる神をそこに見たのである、と教皇は話した。

神が十字架にかかり死ぬことは、あり得ない、ふさわしくないことに思われる、と教皇は述べつつ、それでも、神があえて人間の惨めさの極みに入ることを選ばれたのは、地上のいかなる絶望した人も、その苦しみや闇や孤独の中で、神と出会うことができるようにと望まれたからである、と強調。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(マタイ 27,46; 詩編 22,1)というイエスの叫びは、わたしたちの苦しみをも引き受けることで、救いの叫びとなった、と説かれた。

十字架に神の栄光を見つめることを学ぶためには、どうしたらいいだろうか？教皇は、ある聖人たちは十字架を一冊の本にたとえている、と紹介。本を知るためには、開いて、読まなくてはならないように、十字架を買って家にかけて、身につけたりするだけでは足りず、十字架の前に立ち止まり、それを見つめ、心を開き、わたしたちの愛のために傷ついた神のために感動しなくてはならない、と語られた。

十字架を観想することは、次の一步をもたらす。それは「証しする」ことである、と教皇は指摘。イエスを深く見つめるならば、イエスの御顔はわたしたちの顔に反映され、イエスの考えはわたしたちのものとなり、イエスの愛はわたしたちをとらえ、わたしたちを変容するようになるだろう、と話された。そして、スロバキアの歴史の中で、困難を極めた時代にもキリストの愛を証し、信仰を表した殉教者たちを思い起こされた教皇は、今日、社会の状況は変わっても、十字架ははっきりとした信仰の証しをわたしたちに求めている、と呼びかけられた。(Vatican news)



丹後の教会訪問記(6)

谷山教会 9班 岩崎正幸

京都に入って2日目の朝。7時にジラール神父様の部屋でミサに与ります。その後朝食。昨日の夕食の残りを中心にいただきました。9時ころ昨日約束していた京都暁星高校の先生が見え、ひとしきりカトリック学校のことなど話をしていたら、その学校に行ってみたくなり、連れて行っていただくことに。車で15分くらいのところでした。かつては教会のそばにあり、もともとパリミッションのルラブ神父様が裁縫学校として作られたのが戦後京都暁星高校となりました。確か大松神父様のお兄様が勤めていらしたと聞いたことがあり、校名を覚えていたのです。10年ほど前の移転を機に女子高から共学校になったそうです。市街地からは少し離れていますが、京都丹後鉄道がすぐそばを通過して、通学は便利なようです。生徒数の割にはとても広い敷地。校舎はすべて木造平屋建てで、とても人にやさしい作りになっています。あえて定員を少人数にしているのは、教員が生徒一人一人との距離を近くにするため、とのこと。そのため進路についても一人一人に応じてとても細かい指導ができるらしい。夏休みなのに多くの生徒が登校してきて、それぞれの志望に備えた教科指導をされているところでした。このあたりは大口明光学園と同じような売りになっているのだなあと思いました。大口明光学園とは異なり、こちら京都暁星は高校だけですが、宮津市内からだけではなく、近隣の市町から通学している生徒もいるのは、その細かい指導やカトリック校固有の行事などの魅力もあるからとの話。特にボランティア活動には力をいれているようです。この日は教頭先生が学校を案内してくださったのですが、それは校長先生が生徒を引率し出張中だったから。カリタス南相馬へボランティア活動に行かれていたのです。さらに、あとからパンフレットで知ったのですが、行事のひとつに、丹後の教会巡りがあって、ちょうど昨日訪ねたのと同じ順に、生徒たちは完全に徒歩で巡礼をしているのです。丹後の教会巡りは自分のオリジナルのアイデアと思い込んでいましたが、何のことはない、すでに毎年実施している学校があったとは。そしてもうひとつ感心したのは、校舎がとてもきれいであること。移転から10年くらい経っているのですが、廊下から柱からとにかくピカピカ。まだ新築か、と思うくらいでした。先生がたの指導ももちろんなのでしょうが、自分たちの学校を大切に使おうという考えを一人一人の生徒が持っているからに違いありません。カトリック校をはじめ、よく全国から学校見学に来られるそうです。間違いなく一つのモデルだなあとの印象でした。予定外だったのですが、この学校

訪問はとても有意義な時間でした。再び宮津の司祭館に戻ります。続いてジラール神父様に近くを案内していただきます。昨日徒歩では行けなかったところ



京都暁星高校の庭のマリア像

谷

山教会のみな様。まだまだ暑い日が続きます。体調管理はしっかりされているでしょうか。神様から頂いたものだから、大切にいたしましょう。

さて、9月のことを「長月」と称します



が、「長夜月」に由来すると云われています。時候の挨拶でも「秋」、「涼」、「虫の声」、「月」という文字が出てきます。秋を代表する言葉です。そして何よ

りも「食欲の秋」、「実りの秋」と言われるとおり、楽しみも多い季節でもあります。ああ「読書の秋」であり、月を愛でたり、虫の声に耳を澄ますという風流な愉しみもあります。そういう楽しみは夏の暑い日々があつてのことですよ。

私たち人間は夏の間、暑い暑いと空調のある部屋に逃げ込んで助かっているのですが、ほとんどの生物はこの暑さに耐えてきているのです。涼しくなつて爽りをもたらすことになるのです。

私たちもうだるような暑さのような困難や自分の弱さに押しつぶされそうになりながらも、やっと乗り越えることの喜びを得るのだと思います。主が共に居られ、助けてくださっていることが分かった時、尚更その喜びは計り知れないものであると想像します。福崎英雄神父

前回(8月)の続き

みことばの分かち合い

アンジェラ・K安藤シスター

「イエス様からの平安!」



2011年3月11日東日本大震災発生の日、私は、心臓手術を受け、病院のベッドで静養中でした。同室のテレビ画面をみていた一人の患者さんが、突然大きな声を出して「日本中に津波が来る。この鹿児島にも来る。どうしよう、どうしよう」と慌てて看護師さんの詰め所へ急いで行きました。

テレビニュースを聞きながら、患者さんの慌て方や動揺の声を耳にしなから、私の心はとても平安、何故か動揺していません。静かにベッドに横たわっている私は、諦めでもなく投げやりの心でもなく、後悔でもないとても平安な心で静かに祈っている自分を発見しました。

今思い返しても、あの時の平安は、(平安な心は)復活なびって「いつも共にいてくださる」と約束して下さっているイエス様(自身が、私をすっぽり包み込んでいたからだ。そして今も何時までも、どのような状況に置かれようとも、イエス様のこの約束は、永遠に取り消される事はないと信じ、信じ続ける恵みを願

7月23日(日)谷山教会にて、

ムイベルガ神父様のメモリアルコンサートが開催されました。



い、祈り続けさせていたいただきたいと思います。(完)

シスター
体験談を
有難うござ
いました



徳しをありがとう!

オーケストラに合わせ、美しい歌声が聖堂いっぱい響きわたりました。



戦國之洲公園ザビエル記念碑前 14:00~



ザビエル教会 18:00~

聖ザビエル鹿児島上陸記念式とミサ 2023年8月15日(火)

ヤント神父様(インドネシア出身 33歳)は、休暇を利用し、谷山教会に来られました。現在は、大阪の吹田教会で日本語の勉強をしながら教会のお手伝いや司牧の協力をしておられます。



ヤント神父様

2023年8月15日 聖母の被昇天ミサ 盛主任司祭とヤント神父



令和5年(2023年)谷山教会09月の予定と祝日表(09月01日～09月30日)

日 時		典礼と行事	朗読奉仕者	掃除当番	班会	
1日	金	10:00	初金ミサ/すべての命を守るための月間(10月4日まで)			
2日	土	19:00	年間第22主日のミサ/聖母の土曜日		②③ 教会	
3日	日	6:30&9:00 14:00	年間第22主日/被造物を大切に作る世界祈願日 ベトナム人共同体ミサ		②③	
4日	月	6:30	朝ミサ	今月の行事当番班は、一〇班です。		
5日	火	6:30	朝ミサ			
6日	水	19:00	召命ミサ			
7日	木	6:30	朝ミサ			
8日	金	祝日 6:30	聖マリアの誕生 朝ミサ			
9日	土	19:00	年間第23主日のミサ/聖母の土曜日		④ 教会	
10日	日	6:30&9:00	年間第23主日 *15:00～役員会		④	
11日	月	6:30	朝ミサ			
12日	火	6:30	朝ミサ/(マリアのみ名)			
13日	水	記念日 19:00	聖ヨハネ・クリゾストモ司教教会博士 召命ミサ			
14日	木	祝日 6:30	十字架称賛 朝ミサ			
15日	金	記念日 6:30	悲しみの聖母 /鹿児島教区司教座教会献堂記念 日朝ミサ			
16日	土	記念日 19:00	聖コルネリオ教皇、聖チプリアノ司教殉教者 司牧評議会設 年間24主日のミサ 営		⑤⑪ 教会	
17日	日	6:30&9:00	年間第24主日(高齢者の方々のためのミサ) 9:00ミサ後 司牧評議会		⑤⑪	
18日	月	6:30	朝ミサ	敬老の日		
19日	火	6:30				
20日	水	記念日 19:00	聖アンデレ金と同志殉教者 召命ミサ			
21日	木	祝日 6:30	聖マタイ使徒福音記者 朝ミサ			
22日	金	6:30	朝ミサ			
23日	土	記念日 19:00	聖ピオ(ピエトレルチーナ)司祭 年間第25主日のミサ 秋分の日		⑥⑦ 教会	
24日	日	6:30&9:00	年間第25主日/世界難民移住移動者の日		⑥⑦	
25日	月	6:30	朝ミサ			
26日	火	6:30	朝ミサ			
27日	水	記念日 19:00	聖ビンセンチオ・ア・パウロ司祭 召命ミサ			
28日	木	記念日 6:30	聖トマス西と15殉教者 朝ミサ			
29日	金	祝日 6:30	聖ミカエル、聖ガブリエル、聖ラファエル大天使 朝ミサ			
30日	土	記念日 19:00	聖ヒエロニモ司祭教会博士 年間第26主日のミサ		⑧⑨ 教会	

ロザリオの祈り	毎週火曜日 10:00～	5, 12, 19, 26日
レジオ・マリエ	毎週水曜日 13:30～15:00	6, 13, 20, 27日
聖書と教理－Ⅱ	毎週金曜 10:00～12:00	1, 8, 15, 22, 29日